

学習支援講座 12 年間の取り組み

金子 俊明 古川 日出夫 有友 愛子

平成 14 年度から、中学校新学習指導要領の施行とともに公立中学校の大部分で週 5 日制が完全実施されることとなった。中学部では、授業時間数の削減により教えるべき内容を十分に理解・定着させることが困難になると予想し、それまで行っていた校外学習の内容も存続していきたいとの考えから、土曜休業日を活用した「学習支援講座」「学習進度チェック」の二本柱を設定し、希望者対象の活動を継続してきた。

ここでは主に前者「学習支援講座」の平成 14 年度から 25 年度までの経緯、実践について述べることにする。

【キーワード】 新学習指導要領 生きる力 体験学習

1 「学習支援講座」の構想

学習指導要領では、豊かな人間性や基礎・基本を身に付け、個性を生かし、自ら学び自ら考える「生きる力」を培うことがねらいとして示されている。聴覚特別支援学校においては、子どもの言語習得を図ること、基礎学力を向上させること、社会自立を進めることなどが求められており、各学校が「生きる力」の育成をどのように考え、教育活動をいかにデザインしていくかは大きな教育的課題であった。生徒にとって、実際に見学したり、体験を通して学んだりすることの意義は大きい。また学習を進める中で、学校外のいろいろな人とのコミュニケーションを通して学ぶことは聴覚障害生徒にとって極めて重要であり、読み書きや情報活用能力の育成も必須である。

中学部での「総合的な学習の時間」の展開を振り返ると、指導上の留意点は次のようになっていた。

①「生の体験」から学習を始め、生徒なりの驚きや気づきを促すこと、②ワークシートを活用したり、メモを取るなど、書く活動を自然なかたちで組み込むこと、③調べる際には、多様なメディアも活用させ、支援すること、④グループで協力して分かりやすくまとめさせること、⑤学習した内容をより適切に伝える工夫をし、発表させること、⑥評価を通して学習を振り返らせること。このような学習を展開

するには、かなりの時間を要する。また、基礎的な知識や考える力が育成されていなければ、体験を学習に生かすことが難しい場合もあった。通常の教育課程における時間や空間の制約を考えると、生徒にとってより質の高い学習を実現するには、学校だけではなく家庭や地域の教育的資源とより連携することが望まれた。そこで、学校運営をより活性化し、総合的な学習の時間を補足・拡充し、基礎学力を伸ばすための活動として、以下の二つの柱による活動を計画した。

①博物館・社会教育施設と連携した校外学習～現地での見学や体験、取材等を重視して主体的な学習を促す学習など。

②基本的な知識を補うための指導～基礎・基本を重視した学力伸長のための講座～TTとして卒業生が学習の補助に入った補習や、外部講師を招いた学習など。

この学習支援講座の実施にあたっては、PTA との連携による中学部の取り組みとして位置づけ、主に土曜日を活用して教員はボランティアで指導にあたることにした。

2 各年度の実施内容

(1) 平成14年度の取り組み

月	学習支援講座	学習進度チェック
5	学校周辺の地域学習1	1学期中間試験補習
6	学校周辺の地域学習2	1学期期末試験補習
7	デイキャンプ(保)	—
8	茨城自然博物館の見学	—
9	講演国府台の歴史(外)	—
10	—	2学期中間試験補習
11	江戸東京博物館の見学	2学期期末試験補習
12	講演「江戸川の話」(外) ボウリング大会(保)	—
1	国立科学博物館の見学	—
2	歴史民俗博物館の見学	3学期期末試験補習

注:(保)は保護者主催、(外)は外部講師

(2) 平成15年度の取り組み

月	学習支援講座	学習進度チェック
5	手賀沼周辺博物館巡り	1学期中間試験補習
6	ホテルの里を訪ねて	1学期期末試験補習
7	実験して遊びまショー デイキャンプ(保)	—
9	野球教室(外)	—
10	浦安郷土博物館の見学	2学期中間試験補習
11	人体の不思議展の見学	2学期期末試験補習
1	エアロビクス教室(外)	—
2	料理教室	3学期期末試験補習

注:(保)は保護者主催、(外)は外部講師。



写真1 15年9月野球教室
(講師は元ロッテマリーンズ投手永野氏)

(3) 平成16年度の取り組み

月	学習支援講座	学習進度チェック
5	新撰組展の見学	1学期中間試験補習
6	実験して遊びまショー	—
7	デイキャンプ(保)	1学期期末試験補習
9	マティス展の見学	—
10	—	2学期中間試験補習
11	—	2学期期末試験補習
1	数学の考え方・学び方 料理教室	—
2	—	3学期期末試験補習

注:(保)は保護者主催、(外)は外部講師。



写真2 16年6月 実験して遊びまショー

(4) 平成17年度の取り組み

月	学習支援講座	学習進度チェック
5	科学博物館恐竜展見学	1学期中間試験補習
6	奥の細道を歩くI	1学期期末試験補習
7	デイキャンプ(保)	—
8	プラネタリウムの見学	—
9	日本科学みらい館見学	—
10	—	2学期中間試験補習
11	料理教室	2学期期末試験補習
2	—	3学期期末試験補習

注:(保)は保護者主催。



写真3 17年11月 料理教室
(しそパスタとさつまいものポタージュ作り)

44 学習支援講座 12年間の取り組み

(5)平成 18 年度の取り組み

月	学習支援講座	学習進度チェック
5	—	1 学期中間試験補習
6	—	1 学期期末試験補習
7	デイキャンプ(保)	—
10	—	2 学期中間試験補習
11	—	2 学期期末試験補習
2	—	3 学期期末試験補習
3	奥の細道を歩くⅡ	—

注：(保)は保護者主催。



写真4 19年3月 奥の細道を歩くⅡ(千住～草加)

(7)平成 20 年度の取り組み

月	学習支援講座	学習進度チェック
5	—	1 学期中間試験補習
6	—	1 学期期末試験補習
7	デイキャンプ(保)	—
10	—	2 学期中間試験補習
11	奥の細道を歩くⅣ	2 学期期末試験補習
2	—	3 学期期末試験補習
3	奥の細道を歩くⅠ	—

注：(保)は保護者主催。



写真6 21年3月 奥の細道を歩くⅠ(深川)

(6)平成 19 年度の取り組み

月	学習支援講座	学習進度チェック
5	—	1 学期中間試験補習
6	—	1 学期期末試験補習
7	デイキャンプ(保)	—
10	—	2 学期中間試験補習
11	—	2 学期期末試験補習
2	—	3 学期期末試験補習
3	奥の細道を歩くⅢ	—

注：(保)は保護者主催。



写真5 20年3月 奥の細道を歩くⅢ(草加～越谷)

(8)平成 21 年度の取り組み

月	学習支援講座	学習進度チェック
5	—	1 学期中間試験補習
6	—	1 学期期末試験補習
7	デイキャンプ(保)	—
10	—	2 学期中間試験補習
11	—	2 学期期末試験補習
2	—	3 学期期末試験補習
3	奥の細道を歩くⅡ	—

注：(保)は保護者主催。



写真7 21年7月 デイキャンプ
(昼食は保護者の皆さん特製のカレーライス)

(9)平成22年度の取り組み

月	学習支援講座	学習進度チェック
5	—	1学期中間試験補習
6	—	1学期期末試験補習
7	デイキャンプ(保)	—
10	—	2学期中間試験補習
11	—	2学期期末試験補習
2	—	3学期期末試験補習
3	奥の細道を歩くⅢ	—

注：(保)は保護者主催。



写真8 22年7月 デイキャンプ
(9人制のソフトバレーボール)

(10)平成23年度の取り組み

月	学習支援講座	学習進度チェック
4	地域学習国府台を知る	—
5	—	1学期中間試験補習
6	—	1学期期末試験補習
7	デイキャンプ(保)	—
10	—	2学期中間試験補習
11	—	2学期期末試験補習
12	科学技術館の見学	—
2	—	3学期期末試験補習

注：(保)は保護者主催。

奥の細道Ⅳはインフルエンザ流行のため中止。



写真9 23年12月 科学技術館の見学

(11)平成24年度の取り組み

月	学習支援講座	学習進度チェック
5	皆既日食の観測	1学期中間試験補習
6	奥の細道を歩くⅠ	1学期期末試験補習
7	デイキャンプ(保)	—
10	—	2学期中間試験補習
11	—	2学期期末試験補習
12	チョコレート展の見学	—
2	—	3学期期末試験補習
3	八重の桜展の見学	—

注：(保)は保護者主催。



写真10 24年5月 皆既日食の観測



写真11 24年12月 国立科学博物館の見学
(チョコレート展)

(12)平成25年度の取り組み

月	学習支援講座	学習進度チェック
5	—	1学期中間試験補習
7	デイキャンプ(保)	1学期期末試験補習
10	—	2学期中間試験補習
11	—	2学期期末試験補習
1	校外学習(中止)	—
2	—	3学期期末試験補習
3	根岸文学散歩(予定)	—

注：(保)は保護者主催。

3 特徴的な事例の紹介

(1) 博物館を活用した学習について

学習支援講座で実施した理科関係の事例をいくつか振り返ってみたい。科学系の博物館見学では、国立科学博物館、科学未来館、科学技術館等、総合的な展示と体験学習が充実した博物館を訪れることができた。国立科学博物館の見学では、事前学習用のデジタル教材を自作して当日の体験学習のイメージをつかませるようにした。当日は体験学習を主としてワークシートを併用して見学を進めた。空気の流れや運動に関する学習では、体を動かしながら学ぶことができ、事後の生徒の感想もたいへん良好であった。さらに事後学習では、博物館での学習の様子を記録した映像とワークシートを組み合わせた事後学習用のコンテンツを組み、体験学習をなぞりながら、学習の経過を振り返るようにした。どの生徒がどんな体験をして、どのようにワークシートに記入したのかが一目でわかるようになり、振り返り際には有益であった。引率する側としては、当時とはくに意識していなかったが、現時点から見ると、体験学習を見直すための簡易的なデジタルポートフォリオの作成を盛り込んだ学習となっていたことがわかる。生徒にとっては、単に展示を見るだけではなく、実際に体験をすることや振り返る活動がセットになってはじめて、生きた学習になるといえる。

科学未来館の見学では、燃料電池や水に関する展示を見学し、ある展示コーナーではボランティアの方からペットボトル等を用いて数量を実感させる説明をしていただいた。現地で直接説明を受けたり質問したりする体験は、生徒にとって印象に残るものだったようである。

また、見学の後半では生徒に見学予定を立てさせ、興味・関心に応じて自主的に学ぶことを促すようにした。他の博物館での学習でも、全体での見学の後、自由に見学する時間を設けることもあった。

上記のような総合的な博物館の見学だけではなく、テーマを決めて複数の博物館を巡る企画も実施した。平成 15 年に実施した手賀沼散策では、我孫

子駅から手賀沼周辺の散策路を歩き、科学館での水の学習や鳥の博物館の見学を行った。現地での体験学習では 2 名の理科教諭がつき、プランクトンネットを引いて実際に水生生物を採集する活動も行った。



写真 12 手賀沼周辺の博物館巡り

この時採集したプランクトンは、学校に戻ってからは理科の時間に顕微鏡を使って観察を行い、スケッチをまとめた。生徒が作成した揭示資料には、ウデツツミモ、チャツツケイソウ、アオコ、フクロワムシ、ツボワムシ等が載っている。教科書よりも詳しい内容となり、野外での体験をもとにした発展的な学習が実現できたことがわかる。手賀沼の周辺は沼や林と散策路との距離が近く、鳥を間近に観察できる場所である。途中でキジを見つけて追いかけた生徒や双眼鏡で鳥を観察した生徒、鳥の声が聞こえると感想をもらした生徒など、生徒からはいろいろな応答があり、野鳥観察も楽しいものになった。なお、この年の中 3 生徒にとっては、この学習支援講座は修学旅行先の琵琶湖博物館での学習につながるものであった。

天体に関する学習では、大宮市のプラネタリウムを訪ねた際の学習支援講座も印象に残るものであった。この見学に際しては、視覚特別支援学校の理科教諭からの助言を受け、実現したものであった。当日は、字幕付きの番組の上映や音響への配慮等、細かい配慮をしていただくことができた。他の事例でも同様であるが、博物館見学では生徒を引率する前の準備や博物館との事前の打ち合わせが重要であった。いわば学習の場所が博物館という専門的な機関になったという意識で、博物館職員とともに学習をデザインすることが肝要であったと思われる。

(2) 「奥の細道を歩く」について

①ねらい

江戸時代の俳人松尾芭蕉は、「古人」と仰ぐ西行の五百回忌にあたる元禄二年、門人河合曾良を伴って全行程六百里にも及ぶ旅に出発した。この旅程と旅先で詠んだ発句をまとめたものが有名な「おくのほそ道」である。歌枕を訪ねての旅であったと言うが、一説では一日の平均移動距離は30km前後と考えられるとも言う。芭蕉は何を思い、何を抛りどころとしてこの困難な旅を続けたのだろうか。

折しも角川書店から「週刊奥の細道を歩く」が刊行（2003年5月～10月）されたことと相まって、「学習支援講座」で生徒に芭蕉の旅を擬似体験させてみようと思いついた。当然、起点は千住である。終点をどこにするか。日光までは遠すぎるし、宿泊を伴う計画は無理である。そこで定説で「一泊目の宿」と考えられている春日部をゴールとし、一日の行程を12～14km程度とするため「千住～草加」「草加～越谷」「越谷～春日部」の3分割とした。

さらに、芭蕉関連の史跡が集中する江東区深川での学習を加え、深川から千住に至る船旅（便の関係で両国まで）の要素もそこに加えてみた。

②それぞれの行程

I 深川

両国駅～隅田川テラス～芭蕉記念館～史跡展覧庭園～芭蕉稲荷神社～深川江戸資料館（昼食）～清澄庭園～採茶庵跡～越中島～水上バス～両国駅
※「清澄庭園で一句詠む」等の課題を設けた。

II 千住～草加

千住大橋駅～矢立の碑～旧やっちゃば通り～宿場町通り～千住新橋～ベルモント公園（昼食）～富士浅間神社～草加～草加松原～松原団地駅
※草加市内でせんべいの手焼き体験を行った。

III 草加～越谷

松原団地駅～草加松原～蒲生の一里塚跡～中町周辺の古い家並～元荒川堤～越谷梅林公園～大袋駅

※梅林公園の「梅まつり」に日程を合わせた。

IV 越谷～春日部

大袋駅～備後の一里塚～大落古利根川緑道～川久保公園～東陽寺～小淵一里塚～小淵観音院～春日部駅

③参加生徒数の推移

初回の「深川」では中1のみ9名の参加で始まったが、「次回も是非したい。」との声が多く、また生徒間でも「意外と楽しいらしいぞ。」との噂が広まって、回を重ねるごとに参加者が増えていった。また、18年度入学の生徒（第2回より参加）の中から「是非、4コース全て完歩したい。」との声が上がったため、20年度に限り2回実施している。（この時点で6名が4回完歩。）

表1 参加者数の推移

	内容	参加生徒数（総数）
17年度	深川	9（11）
18年度	千住～草加	13（16）
19年度	草加～越谷	18（21）
20年度	越谷～春日部	12（14）
	深川	30（34）
21年度	千住～草加	22（26）
22年度	草加～越谷	24（27）
23年度	越谷～春日部	インフルエンザ流行のため中止
24年度	深川	24（38）

それぞれの企画には各複数回の実地踏査が不可欠であったが、深川住民の方から芭蕉庵の位置について、東陽寺のご住職から初日の宿を春日部とする説の真偽について、本や博物館では得られないお話を伺うことができたのは有意義であった。



写真13 20年度の「奥の細道を歩く」
（最大30名の生徒が参加）

(3) 料理教室について

平成 15 年度から 3 年間、料理教室を実施した。家庭科の調理実習とは視点を変え、日常の食生活の中で料理を楽しむことをねらいとした。3 年間の実施内容を、表 2 にまとめた。

表 2 3 年間の実施内容

	平成 15 年度	平成 16 年度	平成 17 年度
実施日	2 月 14 日	1 月 15 日	11 月 19 日
内容	・チョコレート ブラウニー	・豆乳プリン	・しそパスタ ・さつまいもの ポターージュ
参加者	生徒 12 名 保護者 3 名 教員 3 名 合計 18 名	生徒 8 名 教員 2 名 合計 10 名	生徒 11 名 教員 3 名 合計 14 名

実施時期に合わせ、2 月にチョコレート菓子を作ったり、11 月には学校で収穫したさつまいもを活用した献立にしたりする等、季節感を意識するよう心掛けた。平成 16 年度に取り組んだ豆乳プリン作りでは、地域の豆腐店が作っている豆乳を材料として使用した。出来上がったプリンを生徒が届けに行き、日頃の感謝の気持ちを伝えることができた。ここでは、平成 17 年度に取り組んだ「しそパスタ&さつまいものポターージュ作り」について紹介する。

①概要

食事作りを日常の食生活の中で実践しようとする意欲を高めることをねらいとし、中学部の畑で栽培した「しそ」と「さつまいも」を活用した献立で実施した。参加者は男子生徒 2 名・女子生徒 9 名・教員 3 名の合計 14 名で、4 班に分かれて取り組んだ。

②料理教室の様子

中学部の畑で収穫したさつまいもを活用したポターージュ作りでは、収穫したたくさんのさつまいもの中からおいしそうなさつまいもを班ごとに選び、協力しながら調理に取り組んだ。

しそパスタで活用したしそペーストは、夏にしそを収穫した際に作成し、冷凍保存したものを活用した。調理実習では収穫したばかりのしそを精進揚げにしたが、しそペーストとして長期保存できる形に

加工したものを活用するという発展的な調理を体験させる良い機会となった。

おいしくできただろうかと緊張しながら試食する様子がみられたが、特にさつまいものポターージュは思っていたよりもおいしくできたと感じた生徒が多かったようである。しそパスタについては、好みが分かれたが、自分でパスタを作ることができた満足感が得られたようである。

参加した生徒が取り組みの様子を家庭で家族と共有したり、参加できなかった生徒が同じレシピで取り組んだりできるよう、料理教室の様子や作り方を本校中学部のホームページ上で公開した。



写真 14 さつまいものポターージュを作る様子

③生徒の感想及び評価

実施後生徒からは、「楽しかったです。作り方も分かって万歳。」「さつまいものポターージュがすごくおいしかったです。みんなとやると楽しい。」「さつまいものポターージュを作るとき、とてもおいしそうだなあと思いました。食べてみたら、本当においしかったです。しそはあまり好きではないから食べるのが大変でした。」等の感想が得られた。また、質問紙によるアンケート調査（五件法）から、料理教室が楽しかったかどうかについては 4.78、「しそパスタ」を家で作ってみたいかについては 3.44、「さつまいものポターージュ」を家で作ってみたいかについては 4.67 という概ね良好な結果が得られた。

学習支援講座として料理教室を実施したことで、ひと手間かかる発展的な調理に挑戦することができ、生徒も楽しく取り組めたようである。特に「さつまいものポターージュ」は好評で、ねらいである食事作りを日常の食生活の中で実践しようとする意欲を高めるきっかけのひとつになったと思われる。

4 参加者の評価

学習支援講座については定期的に参加者対象のアンケートを行うなどして、成果の実態をとらえるとともに企画そのものの見直し、さらなる改善を図ってきた。その一部を紹介したい。

(1) 開始当初（平成15年前期）の調査結果

（回答数 生徒33/35 保護者27/35 教員7/11）

手賀沼周辺の博物館を巡る（5/10）について

①この講座に参加しましたか。

	生徒	教員	合計
参加した	13	3	16(40%)
参加しなかった	20	4	24(60%)

②興味を持って参加できましたか（参加生徒）

生徒は興味を持って参加していましたか。（教）

	生徒	教員	合計
とても興味を持った	4	1	5(31%)
興味を持った	6	2	8(50%)
普通	3	0	3(19%)
あまり持てなかった	0	0	0(0%)
全然持てなかった	0	0	0(0%)

③学習の内容が理解できましたか（参加生徒）

生徒は学習の内容を理解していましたか。（教）

	生徒	教員	合計
とてもよく理解できた	3	3	5(31%)
理解することができた	6	9	8(50%)
普通	4	4	3(19%)
あまり理解できなかった	0	0	0(0%)
全く理解できなかった	0	0	0(0%)

④特に心に残ったこと、気のついたことがあったら書いてください（自由記述）

- ・取手に住んでいるので我孫子にはたまに行きませんが、いろいろな鳥がいるとは思いませんでした。「こんな近くにいたんだ。」と思いました。（生）
- ・「水の館」でいかに自分が水を汚しているかがわかった。手賀沼のそばを歩いたのが気持ちよかった。（生）
- ・鳥の羽や鳴き声の違いがよくわかりました。さわれてうれしかったです。（生）

－以下略－

野球教室（9/6）について

（生＝生徒 教＝教員 保＝保護者）

①この講座に参加しましたか。

	生	教	保	合計
参加した	16	5	1	22(33%)
参加しなかった	17	2	26	45(67%)

②興味を持って参加できましたか。（生徒向け）

生徒は興味を持って参加していましたか。（教・保）

	生	教	保	合計
とても興味を持った	4	3	0	7(32%)
興味を持った	9	2	1	12(55%)
普通	3	0	0	3(13%)
あまり持てなかった	0	0	0	0(0%)
全然持てなかった	0	0	0	0(0%)

③講義の内容が理解できましたか。（参加生徒）

生徒は講義内容を理解していましたか。（教・保）

	生	教	保	合計
よく理解できた	3	0	0	3(13%)
理解できた	8	4	0	12(55%)
普通	5	1	1	7(32%)
あまりできなかった	0	0	0	0(0%)
全然できなかった	0	0	0	0(0%)

④実技講習は楽しかったですか。（参加生徒）

生徒は実技講習を楽しんでいましたか。（教・保）

	生	教	保	合計
とても楽しかった	5	4	0	9(32%)
楽しかった	7	1	1	9(55%)
普通	3	0	0	3(13%)
あまり楽しくなかった	1	0	0	1(0%)
全然持てなかった	0	0	0	0(0%)

⑤特に心に残ったこと、気のついたことがあったら書いてください。（自由記述）

- ・永野さんの球が速くてびっくりした。（生3）
- ・スピードガンで球速を測れよかった（生2）
- ・サインがもらえて嬉しかった。（生3）
- ・野球は意外と楽しかった。（生）
- ・スピードガンで80km/h以下が測れなかったのが残念。保護者の方の参加がよかったです。（教）

－以下略－

(2) 平成 24 年度の調査結果

「皆既日食の観測」(5/21)について

①この講座に参加しましたか。

	生徒	n = 41
参加した	26	63.4%
参加しなかった	15	36.6%

②学習の内容に興味を持ってましたか。(参加生徒)

	生徒	n = 26
たいへん興味を持った	14	53.8%
興味を持った	12	46.2%
どちらとも言えない	0	0.0%
あまり興味が持てなかった	0	0.0%
興味を持てなかった	0	0.0%

③学習の内容を理解できましたか。(参加生徒)

	生徒	n = 26
よく理解できた	10	38.5%
理解できた	15	57.7%
どちらとも言えない	1	3.8%
あまり理解できなかった	0	0.0%
理解できなかった	0	0.0%

④特に心に残ったこと、気のついたことがあったら書いてください。(自由記述)

- ・ 皆と楽しくしゃべったり、学んだりすることができた。
- ・ リングが見えたのが印象的。
- ・ めったに無いことなので興味を持って取り組めた。
- ・ 曇っていてははっきりと見るができなかったのが悔しい。
- ・ 雲の切れ間から見えた時がいちばん心に残っている。
- ・ 日食はきれいだった。ダンボールを使って観察する方法もあって驚いた。
- ・ 月と太陽が重なってきれいだなあと思いました。タブレットでたくさん写真を撮ったこと。朝なのに暗くなり、感動しました。
- ・ 一しゅんだけ、はっきり見えた。

—以下略—

「奥の細道を歩く」深川(6/16)について

①この講座に参加しましたか。

	生	教	保護者	n = 92
参加した	24	3	18	45(49%)
参加しなかった	17	9	21	47(51%)

②興味を持って参加できましたか。(生徒向け)

生徒は興味を持って参加していましたか。(教・保)

	生	教	保	n = 47
とても興味を持った	12	0	8	20(43%)
興味を持った	10	3	11	24(51%)
どちらとも言えない	2	0	1	3(6%)
あまり持てなかった	0	0	0	0(0%)
興味を持てなかった	0	0	0	0(0%)

③学習の内容が理解できましたか。(参加生徒)

生徒は講義内容を理解していましたか。(教・保)

	生	教	保	n = 47
よく理解できた	10	0	3	13(13%)
理解できた	12	3	7	22(55%)
どちらとも言えない	1	0	11	12(32%)
あまりできなかった	0	0	0	0(0%)
理解できなかった	0	0	0	0(0%)

④特に心に残ったこと、気のついたことがあったら書いてください。(自由記述)

- ・ 友達と一緒に歩きながら話したり、見たりしたことがとても楽しかった。(生)
- ・ 国語でやった内容が理解できた。(生)
- ・ 江戸の町並みを再現していた所の見学が楽しかった。(生)
- ・ もんじゃがおいしかった。深川資料館がよかった。(生)
- ・ 芭蕉さんになりきることができた。(生)
- ・ 自分が興味があって参加したが、ぶらり散歩の要素もあり楽しかった。(保)
- ・ もんじゃをみんなで食べたのが楽しかったようで帰宅してから話がとまりませんでした。(保)
- ・ 天候には恵まれませんでした、楽しみながら学べるよいコースだったと思います。(教)

—以下略—

「チョコレート展」(12/15)について

①この講座に参加しましたか。

	生	教	保	n = 92
参加した	16	4	6	26(29%)
参加しなかった	25	8	33	66(71%)

②興味を持って参加できましたか。(生徒向け)

生徒は興味を持って参加していましたか。(教・保)

	生	教	保	n = 37
とても興味を持った	10	3	0	13(50%)
興味を持った	6	1	6	13(50%)
どちらとも言えない	0	0	0	0(0%)
あまり持てなかった	0	0	0	0(0%)
興味を持てなかった	0	0	0	0(0%)

③学習の内容が理解できましたか。(参加生徒)

生徒は講義内容を理解していましたか。(教・保)

	生	教	保	n = 26
よく理解できた	7	1	0	8(31%)
理解できた	8	3	4	15(58%)
どちらとも言えない	1	0	2	3(11%)
あまりできなかつた	0	0	0	0(0%)
理解できなかつた	0	0	0	0(0%)

④特に心に残ったこと、気のついたことがあったら書いてください。(自由記述)

- ・ チョコレートの作り方などよくわかった。(生)
- ・ チョコレートの作り方を実体験できた。(生)
- ・ チョコレートはもともと飲み物だったのに驚いた。(生)
- ・ チョコレートは昔、王さま用のものだと知って驚いた。(生)
- ・ チョコレートの原料のカカオは、赤道近くの熱帯雨林でとれることがわかった。(生)
- ・ 私が行かれなかつたので色々と教えてくれました。食については興味のある内容なので話しかつたのだと思います。(保)
- ・ 食べるだけのチョコレートでしたが、今回の見学でチョコレートをより詳しく学べたのではないかと思います。(保)

—以下略—

5 まとめ

これまでの学習支援講座を振り返ると、多くの方々の御協力によりたくさんの講座が開かれたことを改めて確認することができた。なかでも鮮明に思い出されるのは、学習支援講座を立ち上げた当時の多様な実践である。担当の教員が熱心に様々な企画を考え、保護者も参加するなど、熱気のある取り組みが行われた。それ以来、常の校外学習やプリントを用いた補習とは一線を画する試みが十年以上も継続されてきたことになる。最近のアンケート調査結果も良好であった。

生徒にとっては、目が輝くような体験学習の必要性は現在でも高いものがある。博物館・社会教育施設と連携した校外学習は、学習の楽しさと奥深さを示すものであった。土曜日の開催には保護者の方々の協力をいただいた。講座によっては、生徒・保護者・教員と一緒に活動する機会を持つことができ、本来の趣旨を具体的に示すものになっていた。また、基礎学力伸長のための取り組みは、教員のボランティアによって支えられてきたことに感謝したい。生徒の学ぶ力や生きる力を高めるためには、多くの受け皿とそれを支えるチームによる連携が欠かせない。中学部の学習支援講座もその一助として機能したのではないかと考える。

〔参考文献〕

- ・ 武井順一 金子俊明 佐野秀高 「身近な地域を総合的に学ぶ—学校周辺の歴史・民俗・環境の学習—」(協進社 2002年)
- ・ 筑波大学附属聾学校中学部「魅力ある聴覚障害児教育を目指して—ようこそ筑波大学附属聾学校中学部へ—」(聾教育研究会 2003年)
- ・ 全国聾学校長会専門性充実部会編 「聾学校における専門性を高めるための教員研修用テキスト」(2012年)